

地域貢献・連携研究会の活動

2014年4月21日（月）

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)
地域貢献・連携研究会

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

◆ **会員数 24名**

◆ **座長 鍵屋 一（板橋区役所）**

◆ **副座長 磯打 千雅子（香川大学）**

平成24・25年度の活動状況

- ◆第1回会合 24年5月15日 午後6時30分から
BCAO事務局会議室にて
- ◆第2回会合 24年7月3日 午後6時30分から
BCAO事務局会議室にて
- ◆第3回会合 24年8月17日 午後1時～午後6時
名古屋建設業協会会議室
- ◆第4回会合 24年12月15日 午後3時30分～
品川駅そばのカフェ
- ◆第5回会合 26年3月18日 午後6時30分～
ちよだプラットフォーム・スクエア

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

平成24年度の活動ハイライト

◆地域連携の先進地域である名古屋地区シンポジウム

- ・株式会社山田組
 - ・NPO法人レスキューストックヤード
 - ・東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議（中部地方整備局）
 - ・名古屋大学減災連携研究センター
 - ・NSL（名古屋地区マスコミの勉強会）
- ⇒連携による効果的実践の数々を学ぶ

◆名古屋勉強会、静岡勉強会と「連携」して開催 総勢33名

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

平成25年度の活動ハイライト

◆長沢 恵美子 氏の講演

（一般社団法人 経団連事業サービス 総合企画・事業支援室長）

「多様な主体がつながる～東日本大震災における企業による被災地支援活動の視点から～」

◆概要

- I. 企業による支援の状況
- II. 支援の特徴と「つながり」の事例
- III. 協働のしくみ
- IV. 企業が生み出す支援の輪の広がり
- V. 阪神・淡路大震災から東日本大震災へ

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

平成24年度・25年度の活動総括

- ・縦割りでなく、地域横割りで企業、大学、官公庁、地域団体、NPOが「腹の見える」関係づくり
- ・災害時だけでなく、日頃の活動でも連携協力体制
- ・東日本大震災後に、企業は経団連会員企業で95%が金銭寄付、72%が現物寄付、56%が社員等の被災地支援活動
- ・自治体、日赤など旧来型への支援だけでなく、ボランティア・NPO・NGO、企業相互の連携が活発化
- ・企業は、日頃からの社会貢献活動でボランティア・NPO等との対話・協働の積み重ねが重要
- ・課題の解決に焦点を当てる連携
- ・相互理解の促進による自己変革が進む

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

平成26年度以降の活動展望

「地区防災計画への企業の積極的参加」

- 1) 地域コミュニティにおける共助の推進ため「地区防災計画制度」が新たに創設された
 - 2) 市町村内の一定地区居住者及び「事業者」が自発的に防災活動を計画
 - 3) 「事業者」は地域住民と連携して、共助の強化により地区防災力を向上
 - 4) 発災後3日は地域コミュニティで生き抜くこと
- 企業社員は帰宅困難者ではなく、地域での初動対応要員としての心構えと、計画と訓練が重要になる

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

**ご清聴をありがとうございました。
御社のBCMのご発展をお祈り申し上げます。**

**特定非営利活動法人
事業継続推進機構
地域貢献・連携研究会**

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)